

じましてからは、諸種の政治についても一々其の僧侶と相談をして執り行ふやうな譯でありますて、非常に熱心な教徒となりました、支那の方に此の教を擴めて彼方此方に摩尼教の寺を建てましたのも、全く此の民族の力であります。唐代彼等が摩尼教を信じて居つたといふことは色々な本に書いてありますて明かなことであります、同時に彼等が佛教徒であつたと云ふ記事は殆んど見付からないのであります、唐書以下、唐代の時分の歴史を書きました物に就いて見ましても、ウイグル族が佛教徒であると云ふことは書いて居ないのであります、後に宋の時分に支那から、カラホウジャのウイグルの所へ使ひした人が其の當時の彼等の宗教の有様を書いて、澤山の佛寺があり、其の寺には唐の時分に貰つた勅額があると云ふやうなことを書いて居るので、やつと其有様を想像することが出来ます、其の他にはかゝる記事を認むることが出來ませぬ、けれども近頃、實際其の地(カラホウ)のことを調べた報告に依りますと、或る寺には其寺を建てた人の像が書いてあつて、其の名がウイグル文字で書いてある、これが唐時代の人であることは争はれない證據であると見て居ります<sup>(7)</sup>、詳しく申上げますと長くなりますが、唐の時代に彼等がまた佛教を信じて居つたことを知ることが出來ます、何故實物と記録との間にかゝる相違があるかと云ひますと必ずしも道理のないことではありませぬ、元來此の民族が佛教を信ずるやうになりましたのは漠北に（圖を示し）居つた時代でなく、高昌に移つてから以後の事だと思ひます、外蒙古に居つた時には、初めの中はシャマン教を信じて居り、其の後摩尼教の信徒となつて、九世紀の中頃に退散するまでは佛教の信徒では無かつたに相違ない、何故ならば彼等の前に其の地に居りました突厥民族でも、又た其の他のものでも、此の邊に居つた民族で佛教を信じたと思はれるものは一つもないであります、尤も突厥種族に付き